

令和6年度 学校経営計画・学校評価シート

高知県立高知江の口特別支援学校

《高知県の教育の基本理念》	(1) 学ぶ意欲にあふれ、心豊かでたくましく夢に向かって羽ばたく人 (2) 郷土への愛着と誇りを持ち、高い志を掲げ、日本や高知の未来を切り拓く人 (3) 多様な個性や生き方を互いに認め、尊重し、協働し合う人	学校像	◇子どもにとって 安心・安全に学べ、明日も通いたいと思える学校 ◇保護者にとって 子供を安心して任せられる学校 ◇病弱教育にとって 病弱教育の専門性を有し、センター的役割を發揮できる学校 ◇教職員にとって 個の力をチームの力にできる学校	目指すべき取組姿の概要	○学習指導要領に基づき、適切な実態把握と学習評価を根拠とした「わかる、できる、学びたくなる授業」を行う。 ○よりよく豊かに生きる力を育むことができる特色ある教育活動をつくる。 ○個々の自立活動の中心課題の解決に向けて、チームでPDCAサイクルを動かし自立活動の指導を充実させる。 ○子どもの事や授業づくりにやりがいを持ち、チームで力を發揮する職場づくりをする。
《取組の方向性》	《4つの基本方針》 ①「高知家」の全ての子どもたちが、急速に変化する予測困難な今後の社会を生き抜く力を身につけるための教育の推進 ②「高知家」の子ども誰一人取り残さず、多様な背景・特性・事情等を踏まえた包摂的な教育・支援の推進 ③「高知家」の誰もが、生涯にわたって学ぶことができる環境づくりと活動・取組の推進 ④「学校における働き方改革」、「チーム学校の推進・強化」、「教員等の人材確保に向けた取組」の一体的推進	目指すべき取組姿	□自分に合った学び方を使って主体的に学び、豊かに生きる児童生徒 □多様性を尊重し、他者と助け合い、よりよく生きる児童生徒 □自分の心と身体に適した生活を調整し、健康な生活を送る児童生徒		

《重点取組項目》

(評価 A:目標を十分に達成 B:ほぼ目標を達成 C:やや不十分 D:改善を要する)

項目	取組のねらい【P】	現状と目標【評価指標】	具体的な取組内容【D】	中間評価【C】	中間評価後の取組内容【P・D】	年度末評価【C】	学校関係者評価	見直しのポイント【A】
教育専門性の向上・授業評価と学習評価による授業改善	学習指導要領に基づき、適切な実態把握と学習評価を根拠とした「わかる、できる、学びたくなる授業」を行う。	【現状】 ○9割を超える教員が多感覚を意識した授業、体験活動を行っている。 ○実態把握の取組が進んできた。 ○「わかる、できる、学びたくなる授業」ができていて30人中26人が回答 ○教科会が授業改善に有効的に働いている。 △教師の指導スタイルの転換に難しさがある。 △学びたくなる授業の評価が難しい。 △登校していない児童生徒の体験活動。  【評価指標】 ・学習指導要領を理解していると回答する教員が年度末に上昇:8割以上 ・学習評価と授業評価による評価が出来たと回答する教員が年度末に上昇:9割以上 ・授業改善ができたと回答:8割以上	・各教科等で児童生徒の特性や多感覚を活用した体験活動を取り入れた授業を行い、各教科担当は「授業研究」を通して指導方法の工夫・定着を進める。  ・研究部は研修を計画的・効果的に実施する。 ・研究部は学習指導要領、授業評価、学習評価を根拠とした「わかる、できる、学びたくなる授業」に改善ができるよう、授業者を支援する「授業研究」を実施する。  ・管理職は他校等との連携による指導力向上の機会を作る。  ・教務部は研究部・カリマネ委員会等と課題を共有し教科会を効果的に運営する。  ・DX推進部は、教育活動のDXをすすめるよう提案・企画する。					
キャリア教育の充実	よりよく豊かに生きる力を育むことができる特色ある教育活動をつくる。	【現状】 ○19人中14人(74%)の児童生徒が総合的な学習(探究)の時間は充実していると回答している。 ○(全校)総合の時間の学習で、児童生徒の主体性の発揮や理解が深まってく姿がみられている。 ○(全校)総合の時間の学習評価において、役割を担うことや、自己理解・他者理解の向上があげられている。 △高等部生徒の「探究」が十分に行えていない。 △集団が成立しにくい。 △社会とのつながりが少ない。  【評価指標】 ・総合的な学習(探究)の時間について充実していると回答する児童生徒:8割以上 ・キャリア形成の視点で教科横断的に編成された年間指導計画の作成	・カリマネ委員会はキャリア教育を柱とした教育活動の改善をワーキンググループなどを使って推進する。  ・総合的な学習(探究)の時間担当チームはキャリア形成を全校総合のテーマとして取り組む。  ・教務部、進路部、カリマネ委員会は、キャリア形成の視点で教科等横断的に教育活動を編成できるよう年間指導計画の作成を進める。  ・各部署、各教科等は、SDGsに関する題材を扱う。管理職は、偏りなく扱うよう共有、調整等を行う。  ・文化・芸術・スポーツ活動について本物に触れる活動を各教科等で実施する。					
学校設定項目	個々の自立活動の中心課題の解決に向けて、チームでPDCAサイクルを動かし自立活動の指導を充実させる。	【現状】 ○チームで検討・実践が効果的に行われている。 ○流れ図の理解が進みつつある。 △PDCAサイクルのCAが不十分。 △流れ図と個別の指導計画が繋がっていない。 △教育活動全体での指導が弱い。  【評価指標】 ・研修等で指導力が向上したと答える教員の割合:8割以上 ・全ての個別の指導計画の記載と流れ図の内容に説明可能な整合性がある。 ・自立活動の略案確認(打ち合わせ)時に個々の目標の確認をしている自立活動担当教員が年度末に増加する。	・研究部は、児童生徒の困難さの背景要因の分析や指導内容検討における教員の課題に即した研究体制と研修を実施する。  ・各クラス教員はチームで流れ図と個別の指導計画を連関させて作成し、自立活動担当教員と協働して指導内容を実践する。  ・各学部研究部員と自立担当教員と学部主事は、自立活動の取組状況を把握し、検討・実践が深まるよう推進する。					
働き方改革	子どもの事や授業づくりにやりがいを持ち、チームで力を發揮する職場づくりをする。	【現状】 ○ディスカッションの時間が増加した。 ○チームで対応することが増えている。 ○会議等の精選が進んだ。 △予定外の研修・会議がある。 △職員の意識変容が必要。  【評価指標】 ・前年度比較で、話し合いの機会が増加(学校評価アンケート) ・前年度と比較して、不祥事に関する危機意識が高まったと回答する教員の増加	・各分掌部長・委員会実務担当は、会議や業務の年間の回数・サイクル・時期の見直し(年度初め、年度末)に実施し、形骸化している業務の見直しと廃止を年度途中でも積極的に行う。  ・各分掌部長・委員会実務担当は、効率的な会議運営と周知方法を実施する。  ・管理職・事務職・DX推進部は、効果的な情報共有システム、効率的な書類作成手順を推進し、全教職員で取り組む。  ・管理職は不祥事に係る研修を年度初め及び随時に全教職員に対して実施する。					